

昭和53年度日本気象学会

総会議事録

日 時 昭和53年5月24日 15時30分～16時30分
 場 所 気象庁講堂
 出席者 132名
 書面参加および委任状 676名
 計 808名

1. 開 会

小平理事より、総会の成立には、定款第38条により通常会員現在数3,140名の1/5すなわち625名以上の出席が必要であり、委任状によらない通常会員の1/25の126名以上出席を要することになっているが、委任状が676通きており、この会場に132名出席されており、計808名で総会は成立すると開会を宣言。

議長選出

小平理事より、議長の選出は、定款第35条で出席会員の互選により決めることになっているが、慣例により大会委員長を議長に推したいと語ったところ、満場一致で関原疆大会委員長が議長に決定した。

2. 議長あいさつ

ただいまご指名によりまして、せん越でございますが議長を務めさせていただきますことになりました関原です。どうか不慣れでございますので皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

3. 理事長あいさつ (岸保勲三郎)

気象学会の会員数は、順調に増加しており、昭和52年度の新入会員数は148名、退会者が46名で差引102名の増加で、3,140名となった。(ただし団体会員と外国人会員を除く)。本年は、支部活動強化の方針に沿って、支部大会費を40万円から倍の80万円に増額し、また、支部交付金も1人350円の単価を500円に引き上げることにした。

国際協力事業への参加については、特記事項として衛星シンポジウムの開催がある。すなわち、本年10月22日～11月2日、WMO主催のWMO第Ⅱ、第Ⅴ地区の衛星セミナーが東京で開催されるが、これに引き続いて、気象学会、IAMAP、WMOの後援で“衛星の気象への利用について”のシンポジウムを、東京で11月3日～5日の期間に実施することになった。詳しい内容については、“天気”に掲載する予定である。

次に、FGGE、MONEX、POLEXについては、本年

1月1日より12月31日までの1年間、FGGEが全世界的規模で実施されるが、6月の特別観測強化期間に、MONEX、POLEXも実施され、わが国の研究者もこれに参加する予定である。MONEX、POLEXの計画参加についての紹介は、近く“天気”に掲載される予定である。

また、MAPについては、Middle Atmosphere Project (略称MAP)も1982年からの実施が計画中であり、これにもわが国の研究者の参加が予定されている。

4. 気象学会賞授賞

沢田理事から、選定理由の紹介があり、満場拍手のうちに岸保理事長から次の会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

瓜生道也会員：大気波動と平均場の非線型相互作用に関する理論的研究

5. 藤原賞授賞

沢田理事から、選定理由の紹介があり、満場拍手のうちに岸保理事長から次の会員に賞状、賞牌、賞金が授与された。

片山 昭会員：大気大循環の熱収支に関する一連の研究

6. 昭和52年度事業経過報告

小平理事から次のとおり報告された。

- (1) 機関誌は、内容が充実し、順調に発行された。気象研究ノートは多少遅れたもののこれも予定どおり発行できた。
- (2) 学会賞は、菊池幸雄会員に、藤原賞は吉野正敏会員に、それぞれ贈呈した。また、奨励金は、昨年秋札幌の大会で小形明会員(唐津東高校教諭)、宮川和夫会員(網走地方気象台)、永沢義嗣会員(札幌管区気象台)以上2名共同研究、佐々木芳春会員(仙台管区気象台)にそれぞれ贈呈した。
- (3) 夏季大学は、昨年より多少減ったものの102名の参加者があった。
- (4) “天気予報の現状と将来”のシンポジウムは、200余名が参加し大盛会であった。
- (5) GARPの一環として計画されたGMS(ひまわり)は7月に打ち上げられ現在順調に運用されている。

7. 昭和52年度会計決算報告

第1表 昭和52年度 決算書

収 入 の 部

| 科 目 | 金 額 | 内 訳 | 備 考 |
|-----------------|------------|-----------|------------------------------|
| 会 費 | 22,526,538 | | |
| 雑 誌 図 書 頒 布 | 10,204,698 | | |
| 気 象 研 究 ノ ー ト | | 6,201,448 | |
| 予 稿 集 | | 1,356,307 | |
| そ の 他 | | 2,646,943 | 書店扱, 用語集, 外国文献, papers, 夏季大学 |
| 文 部 省 助 成 金 | 1,780,000 | | |
| 雑 収 入 | 7,221,503 | | 別刷, 投稿料, 広告料, 預金利子 |
| 前 年 度 繰 越 金 | 26,000,123 | | |
| 合 計 | 67,732,862 | | |
| 基 本 金 | | 5,650,000 | |
| 退 職 給 与 積 立 預 金 | | 220,000 | |
| 藤 原 賞 基 金 | | 1,500,000 | |

支 出 の 部

| 科 目 | 金 額 | 内 訳 | 備 考 |
|---------------------|------------|------------|----------------------------------|
| 図 書 印 刷 費 | 28,731,002 | | |
| 気 象 集 誌 | | 7,815,001 | 55/2~56/2 |
| 天 氣 集 誌 | | 13,147,549 | 24/3~25/3 |
| 気 象 研 究 ノ ー ト | | 6,538,566 | 131~134 |
| 予 稿 集 | | 1,046,086 | |
| 夏 季 大 学 テ キ ス ト 他 | | 183,800 | |
| 図 書 購 入 費 | 188,500 | | |
| 発 送 通 信 費 | 3,053,701 | | |
| 気 象 集 誌 | | 427,170 | |
| 天 氣 集 誌 | | 1,258,853 | |
| 気 象 研 究 ノ ー ト | | 392,680 | |
| 一 般 通 信 費 | | 974,998 | |
| 会 議 費 | 594,648 | | |
| 学 会 賞 賞 | 70,000 | | |
| 藤 原 賞 賞 | 70,000 | | |
| 奨 励 金 | 150,000 | | |
| 支 部 交 付 金 | 1,012,200 | | |
| 事 務 費 | 6,972,490 | | |
| 人 物 件 費 | | 4,075,198 | |
| 雜 品 ・ 印 刷 費 | | 1,092,477 | |
| 雜 経 費 | | 1,804,815 | |
| 旅 費 | 355,000 | | |
| 退 職 給 与 積 立 預 金 繰 入 | 100,000 | | |
| 予 備 金 | 40,000 | | シンポジウム「天気予報の現状と将来」 |
| 基 本 金 繰 入 額 | 5,000,000 | | |
| 次 年 度 繰 越 金 | 21,395,320 | | 繰越金の内11,780,400円は53年4月~12月分の前納会費 |
| 合 計 | 67,732,862 | | |

第2表 昭和53年度 予算書(案)

取 入 の 部

| 科 目 | 金 額 | 内 訳 | 備 考 |
|-------------------|------------|------------|---------------|
| 会 費 | 22,251,750 | | 昭和53. 2. 1 現在 |
| A 会 費 | | 7,126,750 | 会員数 1,966名 |
| B " " | | 7,509,750 | " 1,054名 |
| 学 生 A | | 68,250 | " 30名 |
| 学 生 B | | 277,450 | " 62名 |
| 外 国 在 住 A | | 17,900 | " 4名 |
| " " B | | 1,111,250 | " 127名 |
| 団 体 A | | 1,641,600 | " 304名 |
| " " B | | 2,278,800 | " 211名 |
| 賛 助 会 費 | | 2,220,000 | " 33名 |
| 雑 誌 図 書 頒 布 | 14,022,400 | | 計 3,791名 |
| 気 象 研 究 ノ ー ト 集 他 | | 10,202,400 | |
| そ の 他 | | 1,320,000 | |
| 文 部 省 助 成 金 | 1,780,000 | | |
| 雑 収 入 金 | 5,700,000 | | |
| 前 年 度 繰 越 金 | 21,395,321 | | |
| 合 計 | 65,149,471 | | |
| 基 本 金 | | 5,650,000 | |
| 退 職 給 与 積 立 預 金 | | 220,000 | |
| 藤 原 賞 基 金 | | 1,500,000 | |

支 出 の 部

| 科 目 | 金 額 | 内 訳 | 備 考 |
|-------------------|------------|------------|----------------------------------|
| 印 刷 編 集 費 | 29,513,700 | | |
| 気 象 集 誌 | | 6,711,200 | 年間 500頁 |
| 天 象 研 究 ノ ー ト 集 他 | | 12,420,100 | " 780頁 |
| 予 稿 の 他 | | 8,182,400 | " 720頁 |
| 夏 季 大 学 テ キ ス ト | | 1,200,000 | |
| 会 員 名 簿 | | 300,000 | |
| 図 書 購 入 費 | 250,000 | | |
| 発 送 通 信 費 | 4,417,100 | | |
| 気 象 集 誌 | | 649,600 | |
| 天 象 研 究 ノ ー ト 集 他 | | 1,787,300 | |
| 一 般 通 信 費 | | 980,200 | |
| 一 般 通 信 費 | | 1,000,000 | |
| 会 議 費 | 1,425,000 | | 会議費の内1,000,000円は総会・大会費 |
| 学 会 賞 金 | 100,000 | | |
| 藤 原 賞 金 | 100,000 | | |
| 奨 励 金 | 150,000 | | |
| 支 部 交 付 金 費 | 1,215,000 | | 7万円+(500円×会員数) |
| 事 務 費 | 7,464,800 | | |
| 人 物 品 ・ 印 刷 費 | | 4,774,800 | |
| 雜 経 費 | | 1,000,000 | |
| 旅 費 | 250,000 | | |
| 退 職 給 与 引 当 金 | 100,000 | | |
| 予 備 金 | 300,000 | | |
| 翌 年 度 繰 越 金 | 19,863,871 | | 繰越金の内12,343,207円は54年4月～12月分の前納会費 |
| 合 計 | 65,149,471 | | |

杉本理事から、第1表の決算書について次のように説明があった。昭和52年度の学会財政は、会員増加と滞納者の督促に努めた結果、会費の面で増収となったが、図書領布では気象研究ノートの発刊の遅れに伴って予算よりも大巾な減収となった。

一方、支出の面では、気象集誌と天気の刊行に伴う印刷費、編集費の支出が会費収入よりも多くなっているため、会費だけでは学会の運営は困難であり、本年は会費値上げをお願いした次第である。

当学会の基本金は、従来から65万円と僅かであるため、基礎を強固にするために、今までの累積繰越金のうちから500万円を基本金に繰り入れた。

8. 昭和52年度会計監査報告

藤田監事から、次のとおり監査結果が報告された。

- (1) 監査月日 1978年5月1日
- (2) 監査場所 東京都千代田区大手町 1-3-4 日本気象学会事務局
- (3) 監査内容
 - ア. 1977年度決算書
 - イ. 金銭出納簿(金券, 振替, 現金)
 - ウ. 領収証綴
 - エ. 預金証書および普通預金通帳(現在高証明書)
 - オ. 郵便振替受払通知綴
 - カ. 国庫送金通知書綴
 - キ. 備品台帳
 - ク. その他補助簿

(4) 監査意見

監査の結果、1977年4月1日より1978年3月31日に至る会計年度の決算書は、正しいものと認める。書類の記帳は正確であり、整理も極めて良好であり、備品台帳も整備されていた。会費の収入状況は良好であり、会費前納率は98%である。

事務局業務は、事務の能率化、簡素化を計っており、このため財政的に極めて寄与していることを多とする。さらにいっそう努力し学会財政の健全化を計るよう希望する。

議長が、以上6から8までについて質問のある方は挙手をするよう促したが別に質問はなかった。採決すると宣言し賛成者の挙手を求めたところ、全員挙手があったので承認された。

9. 会費値上げのための定款の一部改正について

杉本理事から、値上げのための大要については“天気”3月号で述べてあるが、53年1月から会費をおよそ10%値上げするための定款の改正をしたいと、次のとおり提案理由の説明があった。

提案理由
学会の運営は、会費、文部省助成金および投稿料、広告料等により賄われてきたが、昭和51年以来会費が据え置きとなっているため、諸経費の漸増、外国人会費の円高の影響等により財源が不足し、53年度に予定されている学会活動および機関誌の発行に困難を生ずることが予想されるので、第19期理事会では、再三慎重に審議した結果、会費値上げのやむなきにいたった。

提案理由

そこで、会費値上げのための定款第6条を次のように変更することを提案します。

定款第6条第1項第1号中

「3,500円」を「4,000円」に
 「2,200円」を「2,500円」に
 「4,300円」を「5,000円」に
 「7,000円」を「7,500円」に
 「4,400円」を「4,700円」に
 「8,600円」を「9,200円」に改める。

議長が、会費値上げは予算書案にも関係することなので十分討議するよう促して質問に入り質問者は挙手するよう促したが、質問はなかった。

質問がないので採決した結果は次のとおりである。

| | 総人員 | 可 | 否 | 保留 | 無効 |
|------|-----|-----|-----|----|----|
| 出席会員 | 132 | 132 | 0 | 0 | 0 |
| 書面参加 | 676 | 530 | 100 | 46 | 0 |
| 計 | 808 | 662 | 100 | 46 | 0 |

議長より、本案は、定款第53条により出席会員808名の2/3(539名)以上の賛成者があったので可決成立の旨の宣言があり(満場拍手)、次の議題に進んだ。

10. 昭和53年度事業計画案

小平理事から、次のとおり説明が行われた。

- (1) 本年は、なおいっそう昨年にも増して天気、気象集誌、気象研究ノートをそれぞれ充実したものにしてゆく。
- (2) 10月24日～11月2日にWMOの衛星利用に関する第Ⅱ、第Ⅴ地区のセミナーが東京で開催されるので、引き続いて小規模の衛星利用シンポジウムを行なう。シカゴ大学藤田教授、NOAAのZipserなど

が講師として予定されている。

- (3) 夏季大学を引き続いて7月下旬に行なう。
- (4) 気候変化とその変動のシンポジウムを開催する。
- (5) 新しい企画として、特定テーマの集中講義を計画してやってみたい。

11. 昭和53年度予算書(案)

杉本理事から、会費値上げについての承認のお礼が述べられたあと、第2表の予算書(案)について予算編成の方針と内容について次のとおり説明が行なわれた。

- (1) 会員数は、2月1日現在のものの98%を基礎として会費を算出したが、54年度から会費値上げとなっても、寄与する額は1/4月分である。
 - (2) 文部省の助成金は、178万円とした。
 - (3) 雑収入の内訳は、天気別刷30万円、気象集誌別刷100万円、ノート別刷20万円、気象集誌の投稿料120万円、天気・予稿集の広告料130万円、預金利子150万円、その他20万円の計570万円である。
 - (4) 支出では、印刷編集費は、諸般の状況により10%増とした。
 - (5) 会議費は、地方で行なう秋季大会費は、地方での運営上の困難を考慮して40万円を80万円に増額した。
 - (6) 支部活動を活発にするため基本額7万円は従来通りだが、会員1名当たりの単価350円を500円に増額した。
 - (7) 学会賞、藤原賞の賞金は、他の賞とのかねあいを考慮して、いずれも7万円を10万円にした。
 - (8) 旅費は、仙台で秋季大会が開催されるので、関係各理事、事務局員1名の計5名の旅費を計上した。
 - (9) 予備費は、決算では4万円であったが、各シンポジウムの実施計画を考慮して30万円を計上した。
- 議長が、昭和53年度事業計画、同予算案について質

問があれば挙手をするよう促したところ次のとおり質疑があった。

質問 予算書案で、会費収入が値上げ分を含めているにかかわらず決算書の金額より少ないのはどういうわけか。

答 予算書案では、先ほども説明したとおり、会費は例年98%の前納率であるため、見込みとして98%で計上した。決算書では、滞納していた者を厳しく督促した結果、会費納入があったので増えている。なお、会員数は、2月1日現在で計上してあるが、決算の段階では会員数が増えてきているのも一つの理由である。

質問 予算書を見ると、繰越金がだんだん減ってきている。繰越金を食いつないでいるように思われるが、

答 2年ばかり会費の値上げをしていないので、だんだん減ってきている。繰越金をどの位におさえるか問題がある。

質問 会費の値上げをしても減ってゆかないか。

答 2年間は会費の値上げをしないという約束であったし、今まで財政の蓄積があったので会費の値上げは、低くおさえた。

他に質問がなかったので、議長が、賛成者の挙手を求めたところ、賛成多数により承認された。

12. その他

昭和54年度秋季大会の当番支部は、九州支部に決定した。

議長 以上をもちまして全部の議事を終了させていただきます。皆様方のご協力誠にありがとうございます。